

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

コロナ後のテレワークを考える

コロナ禍では多くの企業でテレワークの導入が進みましたが緊急事態ということで、「ある程度の問題には目をつぶって実施した」という企業も多かったのではないかと思います。遠隔会議や遠隔ミーティングに適したZoom等がもてはやされ、業務の見直しが進み、急に業務のネット化が進みました。

当社でもテレワーク実施時に、①本当に自宅で仕事ができる

のか。②会社のメールやシステムに接続することに問題はないか。③電話対応はどうするのか。等々多くの課題が持ち上がりました。臨時増刊号でも今後のビジネスのスタイルとしてネットを活用した様々な手法について紹介しましたが、今回はテレワークの実施を継続して取り入れることを想定した場合の課題について踏み込んでみたいと思います。

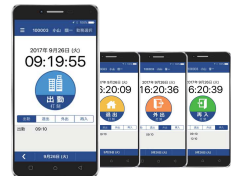
勤怠管理



テレワークで勤務時間の管理

労務規程で「出張」と同じ扱いで「みなし勤務」にするという方法もありますが、勤怠管理を電子化・クラウド化することで、スマホから出退勤の登録が行えます。また、登録時にはGPSで位置情報も一緒に記録されるので場所の特定も可能で労働基準法で定められている勤務時間の記録保持に対応できます。

勤怠クラウドは1ユーザー当たり200円/月からと安い費用で多くのサービスがありますが、給与管理と連動したシステムにすると業務効率化になります。



会社との接続



テレワークではリモートアクセスが必須

会社のパソコンを持ち帰れない場合は、家庭のパソコンを利用することになります。この場合、セキュリティの観点から会社のファイルを保存したり、会社で使っているソフトをインストールすることができません。これを解決する方法は、会社のパソコンを自宅パソコンからリモートで操作する仕組みです。

リモートアクセスサービスとしてKDDIなどのキャリアなどから様々な商品サービスが出てきていますが、ルーター装置とWindowsPCでリモートアクセスを簡単に実現できます。



リモート接続に対応したルーターで接続認証を行うことでランニングコストがかからない環境を構築できます

ネットが遅い

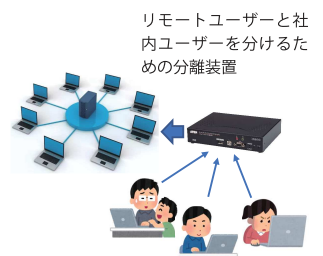


パソコンの反応が遅くて仕事が進まない

テレワークをする社員が増えると自宅のテレワーク用パソコンの応答が遅くなり、さらには会社で仕事をしている人のネット環境まで悪化させてしまう可能性があります。これは、多くの人が社外から社内のネットに接続することで社内ネットに負荷がかかることが原因となっています。

対策としては右の方法があります

- ① プロバイダー契約をビジネスタイプに変更する
- ② 社外から接続するサーバーのネットワークを分離する



テレワークの見える化



テレワークで何をしているかが分からない

社員が自宅でどんな仕事をしているのがよくわからないと思う管理者は多いと思います。リモートアクセスで会社のパソコンに接続して業務を行っている場合のファイルの扱いやアプリケーションの起動状況をログとして記録したり、電源ON/OFF時刻や操作開始/終了時刻などを集計してグラフ化するなどして、PCの使用時間を「見える化」することでテレワーク中の勤務を把握できます。



電話の取次ぎ



テレワーク中の電話の取次ぎ

会社にかかってくる電話を取り次ぐために誰かが必ず社内に居なければならないと考えがちですが、着信転送をして会社携帯で対応できるようにすれば、会社に居る必要がなくなります。社員の携帯電話を「どこでも内線」サービスで繋がれば取次ぎも内線番号で簡単に行えます。社内で勤務する場合も機の電話機は必要なくなり設備コストの削減が期待できます。

「内線番号」のため、オフィスと変わらない環境で業務遂行

